

2024年度事業計画書

〔 2024年 4月 1日 から
2025年 3月31日 まで 〕



公益財団法人

つくば科学万博記念財団

TSUKUBA EXPO'85 MEMORIAL FOUNDATION

公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、明確なビジョンと方針をもって事業を計画的に進めるため、2022年度から5年間を対象とする財団中長期計画（以下「中長期計画」という）を策定した。

2024年度は中長期計画の3年目にあたり、時代の流れや社会のニーズの変化に対応していきながら、引き続き計画実現に向け取り組んでいく。

中長期計画における財団の活動の基本方針は以下のとおりである。

- ①つくばにある科学館として、地域社会と科学技術をつなぎ、科学技術に対する理解と支援が得られるよう活動する。
- ②未来を担う児童生徒など若い世代の科学技術への関心を高める。
- ③つくばを中心とする地域からの期待に応え、魅力ある科学館として地域における存在感を高める。
- ④つくばにある利点を活かし、地域の研究機関や教育機関などとの外部連携・協力を強化し、開かれた館の運営に努める。
- ⑤入館者及びスタッフの安全確保に十分配慮し、活動する。
- ⑥財団とセンターの健全な運営を図るため、必要な収入の確保など財団の運営基盤の強化を図る。

2024年度における事業もこれらの基本方針に沿って行うこととし、2023年度の実績を踏まえ、来館者数の目標を18万5千人とする。

I. 個別の事業活動に関すること

1. つくばエキスポセンターの運営に関する事業【公益1・収益1】

つくばエキスポセンター（以下「センター」という。）の運営事業は、中長期計画に基づき、つくばに立地することを意識し、「若い世代の科学技術への関心を高める」、「魅力ある科学館として地域における存在感を高める」という観点から、展示や科学技術コミュニケーション、催事、プラネタリウム等の様々な活動を推進していく。

事業の実施にあたっては、地元自治体やつくば地域に立地する研究開発機関、大学や民間企業等との外部連携・協力を強化し、センターの役割を果たしていく。

(1) 展示【公益1】

展示事業は、入館者が科学の原理や最新研究を体験できる場となることを目指し、科学技術への興味・関心の喚起、発展的な理解増進に繋がるよう、展示場ごとの機能や役割を明確化し展開していく。

① 1階展示場及び屋外展示場

1階展示場及び屋外展示場は、日常生活の中における科学技術と出会い、体験し、面白さを実感できる「科学技術のエントランス機能」を果たしていくことを目指す。加えて、多様な交流が生まれる空間づくりやイベントを実施する場としても活用していく。

また、親子で科学に触れられる場となるよう展示物を整備していく。更に、長期展示による情報の陳腐化や老朽化等が著しい展示物は引き続き更新・保守作業を進める。

② 2階展示場

2階展示場は、科学技術の重要性を認識し、理解を深め、発展させる機能を果たしていくことを目指し、第6期科学技術・イノベーション基本計画や最新の研究状況・運用状況を念頭に、関係機関等の協力を得て、情報の更新を引き続き実施する。また、筑波研究学園都市の研究機関、教育機関、企業等からの協力を得て、つくばの最新研究活動を紹介する。

③ 3Dシアター

3Dシアターは、センターの特長ある体験設備としてプログラムの上映を行うとともに、団体入館者を対象とした利用促進やシアター機能を活かした多様な展開に取り組む。その際、学校とも連携した教育ツールとしての活用も考慮する。

(2) 催事【公益1】

催事事業は、科学技術をより身近に感じ、科学への興味を喚起することを念頭に魅力的なプログラム等が提供できるよう企画・実施する。

① 一般催事

一般催事は、誰もが気軽に参加でき、自然現象や生活を支える身近な科学技術等を実感できるよう内容を工夫し、サイエンスショー、科学教室、ワークショップを開催する。

② 特別催事

特別催事は、科学の驚きを体験・発見する場として、外部機関との連携も強化しながら、科学の面白さに加え、プログラミングやSDGsなど新たな課題に関連するイベントについても検討し、話題性のあるテーマをタイムリーに提供できるよう企画展、関連イベント等を実施する。

実施にあたっては、幅広い世代の入館者層の発掘や獲得にも留意し、社会からの関心が高い魅力あるテーマを選択し、年間を通じて開催する。

(3) プラネタリウム【公益1】

プラネタリウムはセンターの中核的設備として、魅力あるプログラムの上映や企画を行っていく。また、設備性能を維持するために確実な保守管理を実施する。

上映にあたっては、オリジナル番組の新規制作や集客力のある番組の導入、星空解説番組の内容充実を図り、より魅力ある番組編成としていく。

加えて、学習指導要領に沿った学習番組の充実を図り、団体利用の促進に繋げていく。

天体観望会については観望手法にも工夫を加え、観望対象を広げつつ、より多くの人に天体に接する機会を増やしていく。

その他、次期プラネタリウム更新に関する調査検討を進めるとともに、地元自治体や研究開発機関、大学や民間企業等と連携し、全天周映像などを活用したプラネタリウムの新たな可能性を探る取り組みにもチャレンジしていく。

(4) ミュージアムショップ【収益1】

入館者の科学技術に対する興味関心の喚起に資するため、科学館としての品揃えやディスプレイに配慮し、オリジナル商品の開発や地域の特色も活かした商品等の充実・販売の促進により、売り上げの増加に努める。

(5) その他【公益1・収益1】

職員の派遣や研修参加など科学技術コミュニティを活用し、関係機関と連携・協力していく。【公益1】

また、民間事業者の協力を得て、引き続きカフェスペースの運営を行う。

【収益1】

その他、財団の事業目的に沿った施設等の貸出を行う。【収益1】

2. 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進、科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進に関する事業【公益2・収益2】

未来を担う若い世代が科学技術への関心を高められるように普及啓発活動を行っていく。その際、つくば地域からの期待や要望に応えられるよう配慮する。また、筑波研究学園都市をはじめとする地域の科学技術振興にも資するため、関連する自治体、機関等との連携促進を図りながら各種事業を有効的に実施していく。

(1) 科学技術の普及啓発及び人材育成の促進【公益2】

① 科学技術の普及啓発及び人材育成を促進する事業の共催支援・協力

「第66回科学技術映像祭」等の事業に共催支援し、開催に協力する。

② 科学技術を通じた地域コミュニケーションの創造のための事業

地元自治体、教育機関や研究機関との連携によるコミュニティづくりへの支援を検討し協力していく。

地元のスーパーサイエンスハイスクール指定校などとの連携事業については、生徒の活動の場となるイベントを増やすなど事業の拡充に努める。

③ 全国ジュニア発明展

多年にわたり実施した全国ジュニア発明展の活動趣旨に沿って、地元茨城県全体の小中学生の科学研究・発明工夫活動を茨城県と一体となり、支援していく。また、引き続き県と連携し、地元の教育活動の支援にも力を入れていく。

④ おとなのためのサイエンス講座

大人が気軽に科学技術について学び、関心を深めることができる場を提供することを目的として「おとなのためのサイエンス講座」を引き続き実施する。実施にあたっては、魅力ある講師や講座を開拓し、新規受講者増、受講者の満足度向上に努める。

⑤ アウトリーチ活動

つくばに立地する科学館として、子どもたちの育成支援に向け、科学技術のリテラシー向上及び普及啓発を目的としてアウトリーチ活動を展開していく。活動にあたってはセンターのリソースのほか、外部資金も活用していく。

⑥ エキスポ科学クラブ

将来の科学技術人材の育成とその拠点となることを目的とした「エキスポ科学クラブ」を引き続き実施する。実施にあたっては、子どもたちの育成に効果的なプログラムに改良していくとともに効率的な運用を図っていく。

⑦ 科学館連携事業

全国の科学館とのネットワークを活用し、科学館展示の合理的な運用の検討を行っていく。その中で、科学館視察等の要望にも対応し、他館との連携を深めていく。

⑧ 学芸員育成のための教育支援・職場体験、企業実習の受け入れ

学芸員教育実習及び企業実習、小中学生の職場体験等を受け入れ、次世代の科学技術を担う人材の育成に貢献する。

また、つくばインターナショナルスクール（TIS）と連携し、地域における教育活動の向上にも貢献していく。

(2) 科学技術に関する産業界、大学及び公的研究機関の連携促進並びに科学技術の国際交流の促進【公益2・収益2】

① 助成支援【公益2】

「みらいの科学技術振興事業」（つくばリンク事業）として、事業の効果や支援の必要性を十分に精査し、青少年を対象とした地域における科学技術への関心を高める活動や国際交流推進活動及び国際シンポジウム開催に対して助成・支援を行う。また、研究交流及び産学官連携等を推進する団体等に対する助成・支援・協力を行う。

加えて、財団の財政状況を考慮し、引き続き助成の進め方について検討を進める。

② つくばサイエンスニュースによる情報発信【公益2】

インターネット版科学技術情報「つくばサイエンスニュース」により、筑波研究学園都市にある研究機関や大学等が発表した科学技術関連のニュースをつくば発の研究成果としてわかりやすく発信していく。また、地元自治体や地元関係機関との連携による相互情報発信を通じて地域全体の科学活動の可視化に貢献する。

③ 研究者語学研修を通じた研究者交流【収益2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学の研究者等の研究交流推進等に資するため、文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を実施する。

収益性も念頭に入れながら、オンライン授業や対面授業、様々な難易度のクラス開講など多様なニーズに対応できるよう実施していく。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他1】

「科学技術団体連合」及び「牧友会」の事務局業務について、別団体を取り扱っていることにより、引き続き、休止する。

4. 情報発信・広報活動

センターの事業等に関し、地元記者会等へのタイムリーな情報提供や各種取材に適宜対応し積極的な情報発信を行っていく。また、ホームページやSNSでタイムリーな広報を行っていくとともに、状況を見ながらデジタルサイネージを効果的に活用し、来館者増を図る広報活動を強化していく。

5. その他

財団活動を効率的かつ効果的に進めていくため、2022年度からの5年間を対象とした中長期計画の下、地元自治体をはじめとする関係機関等との連携・協力を得て、事業運営に努める。

また、地域における役割の認識や期待に応えるため、つくば市等との定例的な意見交換を継続し、地域に留意した事業の展開や新たな取り組みを検討していく。

II. 財団運営に関する総合的な活動に関すること

1. 代表理事・業務執行理事及び理事会・評議員会

代表理事及び業務執行理事の執行体制で財団経営を担い業務を適切に執行する。理事会・評議員会については、定款等で定められている通り適切に運営する。

2. 監事監査

理事の業務執行及び事業報告、計算書類等の監事監査を行う。また、これに資するため外部監査として公認会計士による監査を実施する。

3. 基金の運用

財団を健全に運営しその目的を達成するため、金融環境の現状を踏まえ、基金運用の方針に基づき、柔軟かつ機動的に運用を行う。

4. 外部資金

センターの運営等に際して、適切な外部資金の活用を検討し、獲得に向けて積極的に対応する。

5. 施設・設備【公益1】

センター来館者の安全性や快適性を確保するため、計画的に施設・設備等の整備を実施し、既存施設の老朽化対策の取り組みを推進する。

6. 業務執行体制

財団業務を担う人材の確保、多様化する業務への柔軟な対応、職員の能力・専門性をより発揮しやすい環境の醸成に取り組んでいく。引き続き、働き方改革にも積極的に取り組む。

以上